エンジンチェンソー
取 扱 説 明 書

モデル　MEA3201M

目次

このたびは**マキタエンジンチェンソー**をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
お求めの製品を安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書をよくお読みください。
この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会:陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp/

シンボルマークについて

・ 製品および取扱説明書にシンボルマークを記載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。

ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。

保護めがね、耳栓、保護帽などの保護具を着用してください。

混合燃料を入れてください。

通気の悪い場所では運転しないでください。

チェーンオイルを入れてください。

燃料の混合、給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。

エンジンを停止してください。

燃料の混合､給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。

ガイドバーの先端での切断はしないでください。

両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。

注意文の ⚠警告 ・ ⚠注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ： 誤った取り扱いをしたときに､使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 ： 誤った取り扱いをしたときに､使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。なお､⚠注意 に記載した事項でも､状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ： 製品および付属品の取り扱い等に関する重要なご注意。

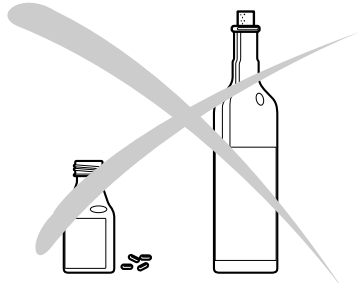
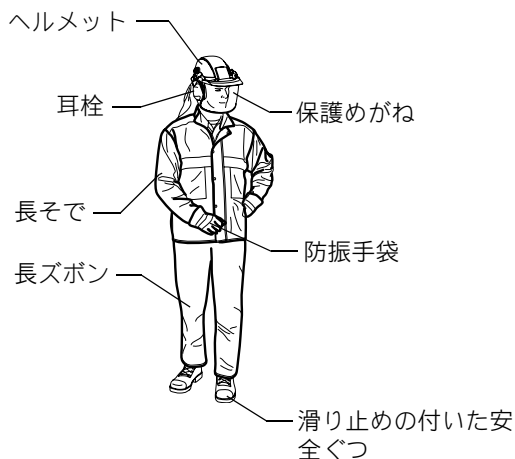
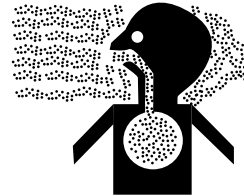
エンジン製品の安全上のご注意

・ 引火、火災、けがなどの事故を防止するために、次の「エンジン製品の安全上のご注意」を必ず守ってください。
・ ご使用前に、この「エンジン製品の安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
・ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
・ 本機の取り扱い知識が不充分な場合、事故の原因になります。

2. 安全装置を取りはずしたり改造は絶対にしないでください。
・ 事故やけがの原因になります。

3. 事故の原因になります。次のときは本機を使用しないでください。
・ 疲れているとき、身体が不調なとき。
・ 酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。

4. 使用時は常に防振手袋、保護めがね、耳栓、保護帽（ヘルメット）を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
・ けがの原因になります。
また手ぬぐいやタオルを首からさげて作業しないでください。
袖や裾の締まりのよい服装をしてください。
・ 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
身体を冷やさないような服装で作業してください。

5. エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で、使用しないでください。
・ 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

6. 作業場は充分明るくしてください。また作業は視界のよい日中のみ行ってください。
・ 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。

7. 雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。
・ 転倒して、けがの原因になります。

8. 燃料の取り扱いには充分注意してくだい。
・ 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。
・ 身体に異常を感じた場合は、直ちに専門医に相談してください。

9. 引火・火災の恐れがあります。
・ 燃料の持ち運びや保管、取り扱いには充分注意してください。
・ 燃料の混合、給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

・ 燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・ 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
・ 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも３ｍ以上離れてください。
・ ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のあるものの近くでは、使用しないでください。
・ マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。

10. 始動時および使用中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。
・ 感電する恐れがあります。

11. 使用中、本機の調子が悪かったり、異常音が発生したときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止し、お買い上げの販売店または当社営業所に点検・修理をお申し付けください。
・ そのまま使用していると、けがの原因になります。

エンジン製品の安全上のご注意

⚠注意

1. 損傷した部品がないか点検してください。
・ 使用前に損傷した部品がないか充分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
2. 調節キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。
・ 付けたままでは飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。
3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規則があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。
4. エンジンの始動時は、周囲の人や障害物に充分注意して必ず一人で操作してください。
・ 事故の原因になります。
5. エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
・ 事故の原因になります。
6. 使用を中断したり、移動するときは必ずエンジンを停止させてください。また、エンジンをかけたまま放置しないでください。
・ エンジンをかけたままですと、事故の原因になります。

7. 使用時および エンジン停止直後は、マフラなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
・ やけどの原因になります。
8. スパークプラグ点検整備時、シリンダ内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグ取り付けネジ部にはスパークプラグを接触させないでください。
また、スパークプラグの金属部に触れながらスタータハンドルを引かないでください。
・ やけどの原因になり、また感電する恐れがあります。
9. 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。

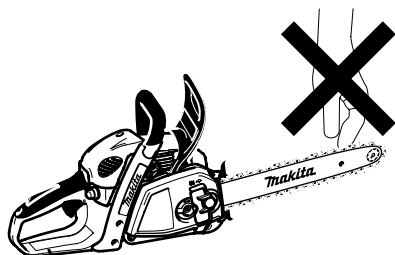
10. 付属品および交換される部品は、必ず指定されたマキタ純正品をご使用ください。
・ マキタ純正部品以外のものを使用されますと、事故やけがの原因となる恐れがあります。
11. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと事故やけがの原因になります。

エンジンチェンソーの安全上のご注意

先にエンジン製品としての共通の注意事項を述べましたが、エンジンチェンソーとして、さらに次の注意事項を守ってください。

⚠警告

1. 本機は、木材や木製品の切断を目的とした機械です。この目的以外には、使用しないでください。
・ 目的以外で使用されますと、けがや事故の原因になります。
2. チェーン刃は、取扱説明書に従って正しく取り付け適正な張りに調整してください。
・ 誤った取り付け方をしたり、チェーンの張り方がゆるいとガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。
3. 使用時は、両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。
・ 本機がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。

4. 使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
・ けがの原因になります。

5. 使用時は、チェンソーの左側に立って使用してください。
・ 的確な操作ができず、事故の原因になります。
6. はしごや木に登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。また、肩の高さより高い位置で使用しないでください。
・ けがの原因になります。

7. ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
・ 本機がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。

8. 誤って落としたり、ぶつけたときは、チェーン刃、ガイドバーや本機などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
・ 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
9. チェーン刃は、正しく目立てしてください。
・ 特にデプスゲージの寸法が大きくなりすぎますとチェーン刃が破断しやすくなり、けがの原因になります。
10. 〔事業者の方へ〕
樹木を伐り倒す作業や伐り倒した樹木を切断する作業を行う場合は、法、規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

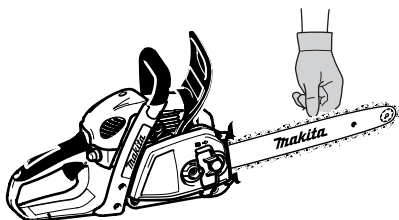
（関連法令）
労働安全衛生法第 59 条第 3 項
安全衛生特別教育規程第 10 条の 2
労働安全衛生規則第 36 条第 8 号および第 8 号の 2

⚠注意

1. 行政機関では、チェンソーの 1 日の使用時間は 2 時間以内、連続操作時間は 10 分以内にするよう指導しています。作業時間の組み合わせを上手に計画してご使用ください。
2. 寒いときの休憩や昼食時には暖をとり、身体の保温に心がけてください。
3. チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
・ けがの原因になります。

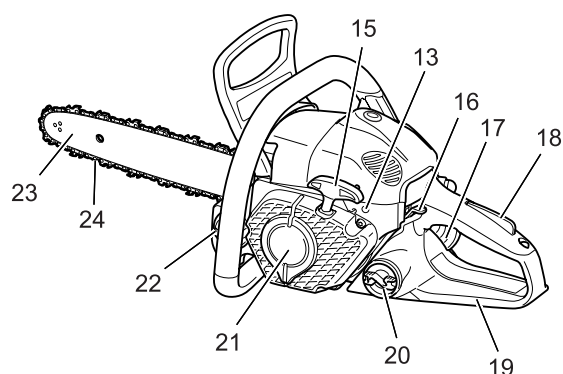
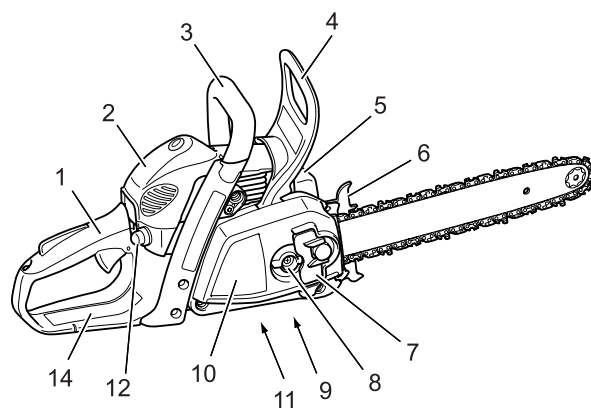
4. 2 台以上で作業するときは、安全な距離をおいてください。
・ 事故の原因になります。
5. ガイドバー、チェーン刃の取り付け、チェーンオイルの自動給油量を調整するときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・ エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。また停止直後では高温となっているため、不用意に触れるとやけどの原因になります。

6. エンジンを始動させるとき、チェーン刃が材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
・ 本機が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。
7. 切断材料に石、釘などの異物がないことを確かめてください。
・ チェーン刃が石などに当たると、けがの原因になります。
8. 切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に充分注意してください。
・ けがの原因になります。
9. 切り落とし寸前や切断中に材料の重みでガイドバーが材料に挟み込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
・ ガイドバーが挟み付けられるとけがの原因になります。
10. 使用を中断したり、移動するときは、必ずエンジンを停止し、チェーン刃がむき出しにならないようガイドバーにカバーをしてください。
・ けがの原因になります。
11. 使用しないときは、ガイドバーにカバーをし、チェーン刃がむき出しにならないようにして、お子様の手の届かない所に保管してください。
・ けがの原因になります。

仕様

区分	項目（単位）	MEA3201M
エンジン	形式	空冷 2 ストローク単シリンダ
	排気量（cm^3）	32.0
	キャブレタ	ダイヤフラム式
	点火方式	フライホイルマグネット：電子点火方式
	スパークプラグ	NGK CMR6A
	始動方式	リコイルスタータ
	クラッチ	自動遠心式
燃料	使用燃料	レギュラーガソリンと 2 ストローク専用エンジンオイルの混合ガソリン
	混合比	25 ～ 50:1（マキタ純正 2 ストローク専用エンジンオイルまたは、JASO 分類 FC 級以上のオイル使用）
	タンク容量（L）	0.40
チェーンオイル	使用オイル	マキタチェーン専用オイルまたはエンジンオイル
	タンク容量（L）	0.28
	給油方式	自動
切断部	チェーン刃	91VG-52E/91PX-52E
	ガイドバー長さ（mm）	350
質量（kg）		4.2
寸法（長さ×幅×高さ）（mm）		405 × 269 × 273
振動 3 軸合成値	前ハンドル	$4.8m/s^2$
	後ハンドル	$4.8m/s^2$

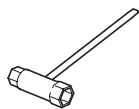
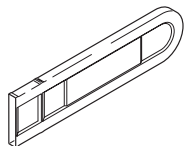
・ 振動 3 軸合成値は、ISO22867 規格に基づき測定。
・ 振動 3 軸合成値についての詳細は JEMA［(社) 日本電機工業会］ウェブサイト：(http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html) をご参照ください。

質量・寸法は、ガイドバー、チェーン刃、ガソリン、チェーンオイルをのぞいた値です。
改良のため、主要機能および形状等は変更することがありますのでご了承ください。

1. 後ハンドル
2. トップカバー
3. 前ハンドル
4. 前ハンドガード
5. マフラ
6. スパイク
7. スプロケットカバー固定レバー
8. チェーン刃張り調整ツマミ
9. チェーンキャッチャー
10. スプロケットカバー
11. オイル調整ネジ（底面）
12. プライマポンプ
13. アイドリング調整ネジ
14. 銘板
15. スタータハンドル
16. チョークレバー
17. スロットルレバー
18. スロットルロックレバー
19. 後ハンドガード
20. 燃料タンクキャップ
21. ファンハウジング
22. オイルタンクキャップ
23. ガイドバー
24. チェーン刃

標準付属品

- チェーンカバー

- レンチ

- ードライバ

別販売品

- チェーン刃
  部品番号：A-12837
- デプスゲージジョインタ
  部品番号：D953100090
- 丸ヤスリ 4
  部品番号：A-44024

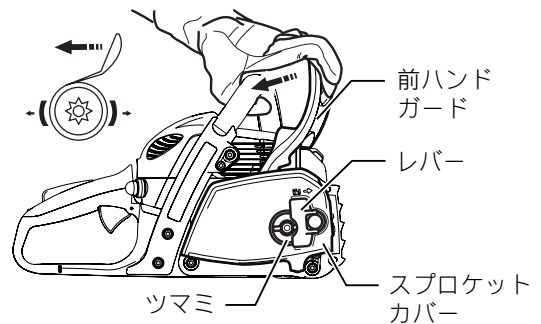
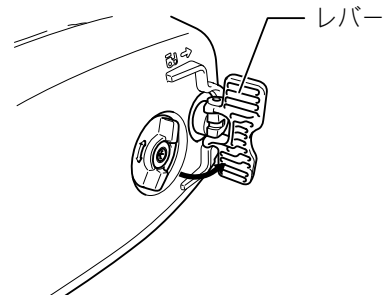
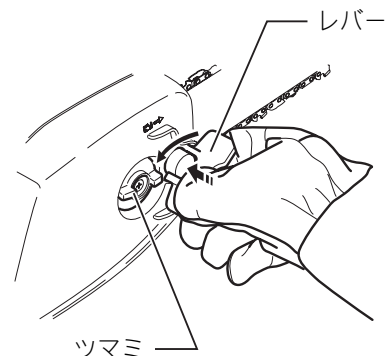
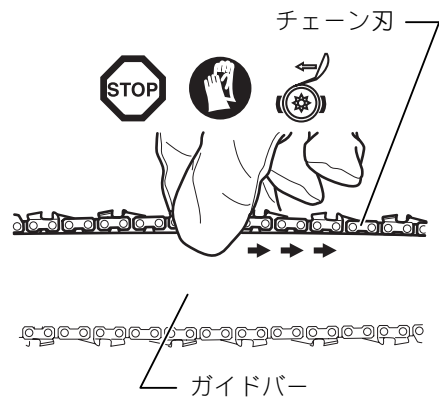
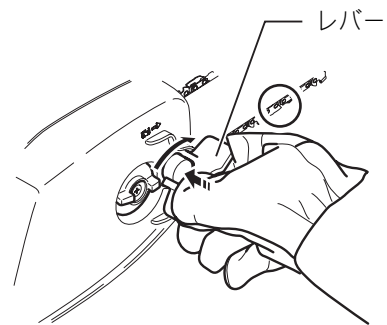
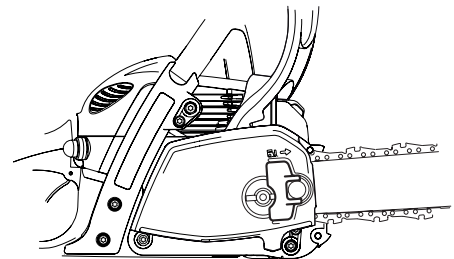
チェーン刃の調整

⚠警告

チェーン刃は、必ず適正な張りに調整してください。
・　張り方がゆるいと、ガイドバーからチェーン刃がはずれ、けがの原因になります。

⚠注意

チェーン刃の調整をするときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・　エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。
・　また停止直後では、高温となっているため、不用意に触れると、やけどの原因になります。
チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
・　けがの原因になります。

1. 調整をする前に、前ハンドガードを手前に引いてチェーンブレーキを解除してください。

2. レバーを図のように起こします。

3. レバーを押し込みながら左（反時計回り）へ約 1/4 回転回してナットを軽くゆるめます。（レバーを押し込むとガイドバーを固定しているナットとレバーがかみ合います。）

4. ガイドバーの先端を軽く持ち上げ、チェーン刃を調整するツマミを右（時計回り）に回し、チェーン刃の張りを強める方向に調整します。チェーン刃の張りをゆるめる場合も一度大きくゆるめた後に張りを強める方向に調整してください。チェーン刃がガイドバーの下側にはまった状態で、手で軽く動くように調整します。

5. レバーを押し込みながら右（時計回り）へ回してしっかり締めます。

6. レバーを元の位置へ倒します。

注

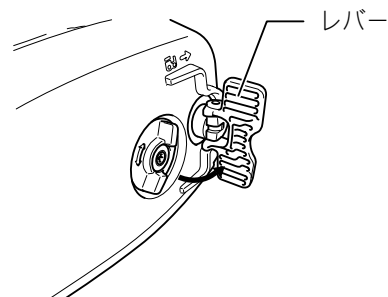
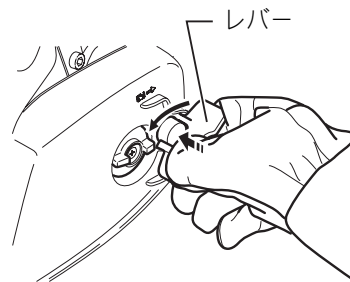
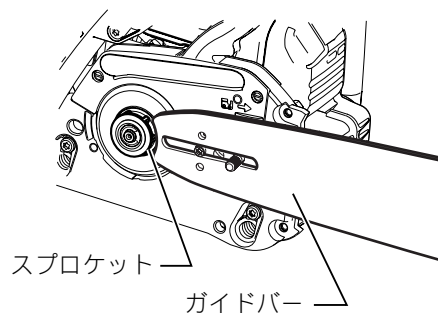
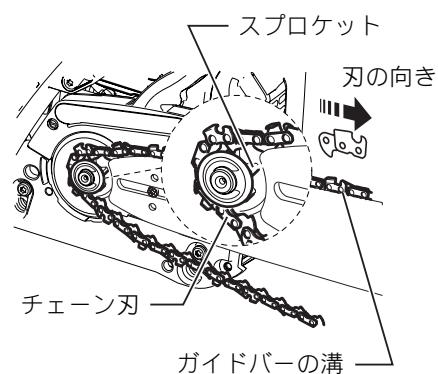
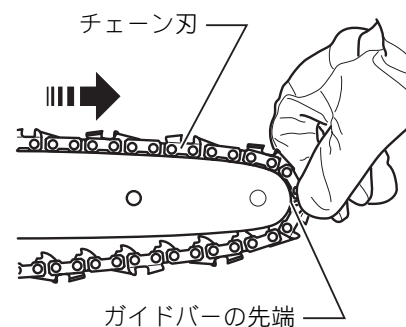
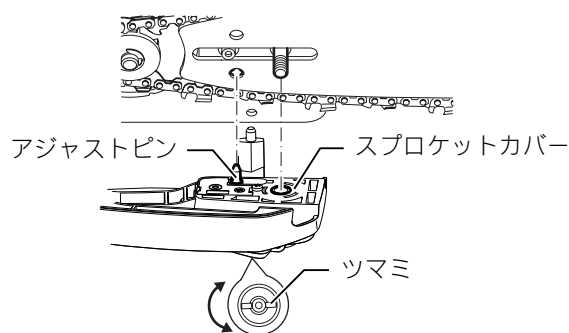
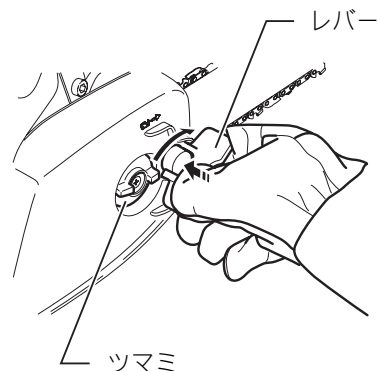
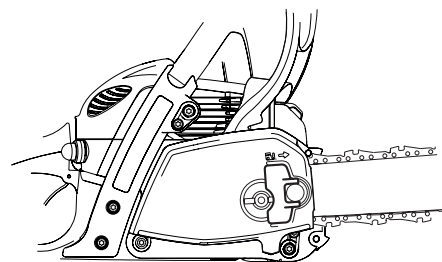
- チェーン刃が新しい間は伸びがちですので、時々調整してください。
- チェーン刃の張りすぎは、チェーン刃の破断、ガイドバーの摩耗、ツマミの破損などの原因になります。
- 張り方がゆるいときは、チェーン刃がガイドバーからはずれる原因となります。

ガイドバー、チェーン刃の取り付け・取りはずし方

⚠注意

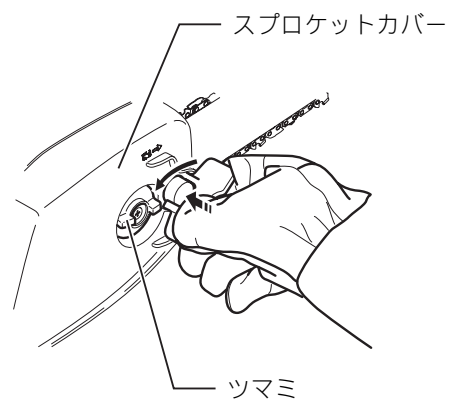
ガイドバー、チェーン刃の取り付け、取りはずしをするときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。
- また停止直後では、高温となっているため、不用意に触れると、やけどの原因になります。

チェーン刃を取り扱うときは、手袋を着用してください。
- けがの原因になります。

1. スプロケットカバーをはずす前に、チェーンブレーキが解除されているか確認してください。
   チェーンブレーキは、前ハンドガードを手前に引くと解除できます。
2. レバーを図のように起こします。

3. レバーを押し込みながら左（反時計回り）へ回してスプロケットカバーがはずれるまで回します。

4. ガイドバーを本機に取り付けてください。

5. 刃の向きに注意して、チェーン刃をスプロケットに掛け、スプロケット側から順にガイドバーの溝にチェーン刃を入れてください。

6. ガイドバー先端付近のチェーン刃を矢印方向に引っ張り、張ってください。

7. アジャストピンをガイドバーの小穴に入れてスプロケットカバーをかぶせます。
この際、アジャストピンの位置がずれてガイドバーの小穴にはまらない場合は再度ツマミを回してアジャストピンの位置を調整します。

8. レバーを押し込みながらレバーが止まるまで右へ回してから、左へ約 1/4 回転回して軽くゆるめます。

9. チェーン刃の調整 (P10 参照) に従って、チェーン刃の張りを調整し、レバーを押し込みながら右へ回してしっかり締めます。

注

- **チェーン刃の取り付け、取りはずしの際は、切りくずなどのないきれいな場所で行ってください。**

チェーン刃の取りはずし方

- レバーを起こします。
- レバーを押し込みながら左へ回してスプロケットカバーがはずれるまでゆるめます。
- ツマミを左へ回してチェーン刃の張りをゆるめます。
- スプロケットカバーを取りはずします。
- チェーン刃、ガイドバーを本機より取りはずします。

燃料とチェーンオイルの給油

⚠警告

燃料の混合および給油をするときは、必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。
- 火気のない所で行ってください。また通気のよい場所で行い、タバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- 燃料給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

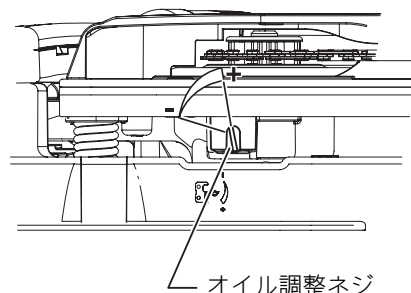
燃料の取り扱いには充分注意してください。
- 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

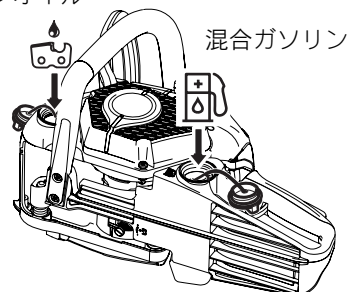
1. 燃料について
- 本機に使用する燃料は、レギュラーガソリンと 2 ストローク専用エンジンオイルを 25 ～ 50：1 の割合で混ぜた混合ガソリンです。
  ただし、マキタ純正 2 ストローク専用エンジンオイルまたは JASO 分類 FC 級以上のオイルを使用してください。
- レギュラーガソリンに混ぜるエンジンオイルの種類や混合する割合が異なりますと、エンジン不調の原因になりますので指定されたオイルを指定された割合で混合してください。

ガソリン	オイル 50:1	オイル 25:1
1000mL (1L)	20mL	40mL
5000mL (5L)	100mL	200mL
10000mL (10L)	200mL	400mL

⚠注意

チェーンオイルの自動給油量を調整するときは、必ずエンジンを停止させてから調整してください。
- エンジンをかけたままですと、不意にチェーン刃が回りだしたときに、事故の原因になります。

2. チェーンオイルについて
- チェーンオイルは、チェンソーを運転すると自動で給油されます。
- 給油量は、オイル調整ネジを回すことによって 2 段階に調整できます。
  給油量の調整は付属の小さなマイナスドライバを使用してください。
  給油量を増やすときはオイル調整ネジを時計方向に、給油量を減らすときはオイル調整ネジを反時計方向に回してください。
- 使用するチェーンオイルは、マキタチェーン専用オイルまたは下記のエンジンオイルをご使用ください。
  夏期：SAENo.30
  冬期および樹脂の多い木：SAENo.10W － 30

3. 燃料、チェーンオイルの給油
- 燃料およびオイルタンクのキャップが上になるように本機を置いて、それぞれのキャップをはずしてください。
- 入れすぎてこぼさないように注意して、混合ガソリン、チェーンオイルを給油してください。

給油が終わりましたら、それぞれのタンクのキャップを手でしっかり締めてください。

注

- **燃料の入っている燃料タンクキャップを開けるときは、ゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。**
- **燃料とチェーンオイルの給油口を間違わないように注意してください。**
- **オイル調整ネジは無理に回すと部品が破損する恐れがあります。**
- **ガソリンだけでは絶対に運転しないでください。**
- **チェーンオイルの補給は、燃料を補給するたびに行ってください。**
- **長期間保管して古くなった燃料は使用しないでください。故障の原因になります。**
- **燃料タンク、オイルタンクにゴミなどの異物が入りますと、故障の原因になります。ゴミなどが入らないように気を付けてください。**
- **オイルタンクのキャップをはずす際は、キャップがマフラに触れないようにしてください。**

始動・停止

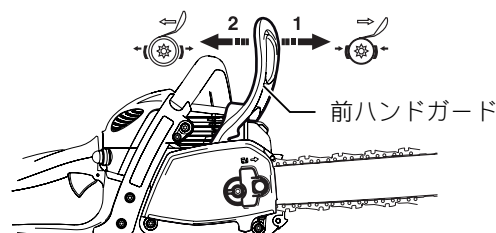
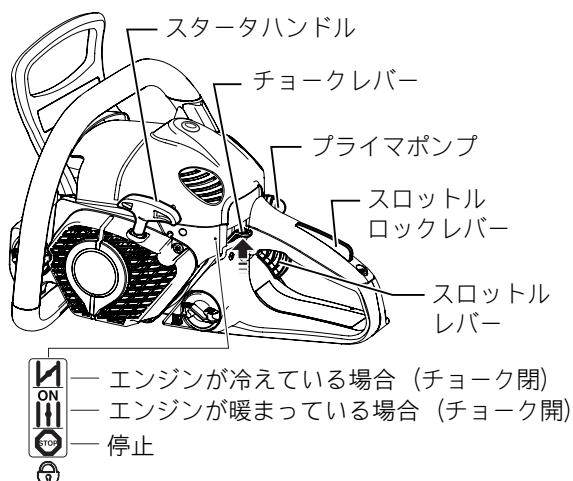
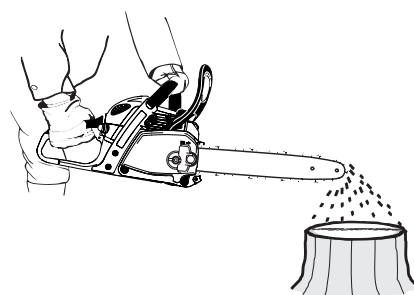
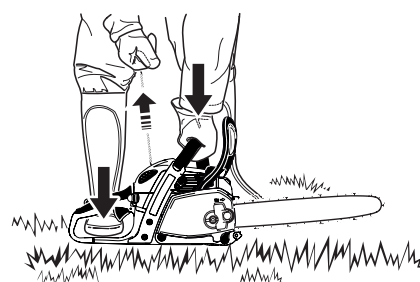
⚠警告

燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも 3m 以上離れてください。
・ 引火・火災の原因になります。

⚠注意

エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
・ 事故の原因になります。
エンジンを始動させるとき、チェーン刃が材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
・ 本機が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。

1. エンジンが冷えている場合の始動

1. チェーンブレーキを作動状態にしてください。

2. 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押してください。
通常 7 ～ 10 回押せば、燃料が上がってきます。
3. チョークレバーを一番上に上げ の位置にしてください。

4. チェンソーが動かないようにしっかり押さえ、スタータハンドルをゆっくり引き出します。
5. スタータハンドルに抵抗を感じたら勢いよく引き出し、最初の爆発音がするまで繰り返してください。
（爆発音の後、エンジンが始動しなければ手順 6 へ、始動したときは手順 7 へ移ってください。）
6. 爆発音がしたらチョークレバーを中間の位置 に戻し、再びスタータハンドルを数回引いて始動させてください。
7. エンジンが始動しましたら、直ちにスロットルレバーを引いてスロットルの固定を解除し、チェーンブレーキを解除してください。
8. 2 ～ 3 分間スロットルレバーを引いたり、戻したりを繰り返して、暖機運転を行ってください。気温が低いときには、充分な暖機運転が必要です。
9. エンジンの回転が安定し、低速から高速回転にしたときに滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。
10. 暖機運転がすみましたらチェーンオイルが吐出されているか確認してください。スロットルレバーを引き数秒間、高速回転してみます。
チェーンオイルが飛散していれば正常に吐出されています。

2. エンジンが暖まっている場合

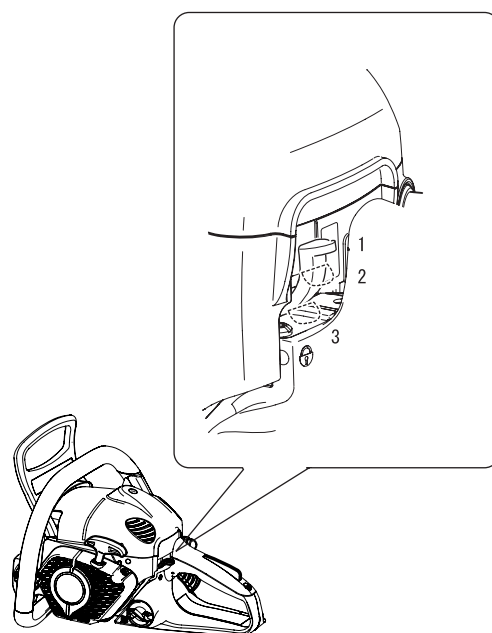
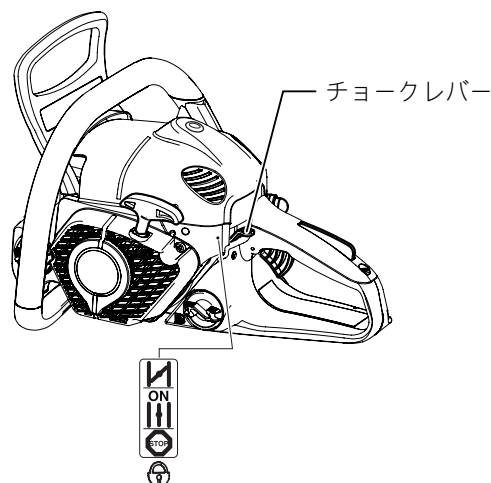
1. チェーンブレーキを作動状態にしてください。
2. チョークレバーを一番上に上げ の位置にした後すぐに中間の位置 ON に戻してください。この操作により、スロットルは少し引いた位置に固定されます。
3. チェンソーが動かないようにしっかり押さえ、スタータハンドルを引いてエンジンを始動してください。2 ～ 3 回引いても始動しない場合は、「エンジンが冷えている場合」の手順で始動してください。
4. エンジンが始動しましたら、直ちにスロットルレバーを引いてスロットルの固定を解除し、チェーンブレーキを解除してください。

注

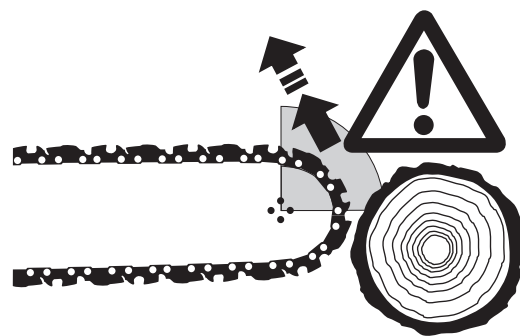
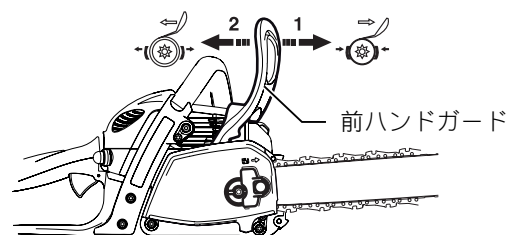
- **チョークレバーを の位置にしたままスタータハンドルをいつまでも繰り返して引き続けますと、燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。**
- **燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずし本機を逆さまにして、スタータハンドルをゆっくり数回引いて余分な燃料を出してください。また、スパークプラグの電極部を乾かしてください。**
- **スタータハンドルを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。また、スタータハンドルは急に手放さず静かに戻してください。**
- **無負荷高速運転（空ふかし）はエンジンの寿命を縮めますのでむやみにしないでください。**

3. 停止

・ エンジンを停止させるには、スロットルレバーを戻し、チョークレバーを軽く停止方向（図の 2 の位置）に押すとエンジンは停止し、チョークレバーの操作をしなくても始動できます。

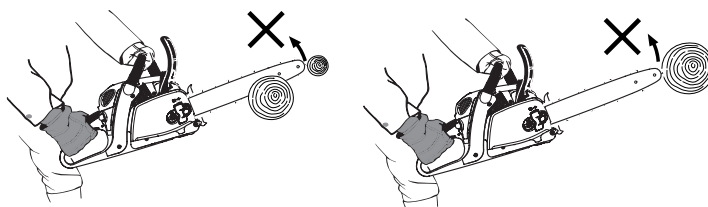
・ チョークレバーを完全に停止位置「 」（図の 3 の位置）まで押すと、エンジンは始動しません。

◎チェーンブレーキについて

・ チェーンブレーキは、使用中にはね返り（キックバック）が生じたときの、危険を少なくするための装置です。このチェーンブレーキは、ガイドバーの先端で切断したり、ガイドバーの先端が枝などに触れた場合など強いはね返りが発生したときに自動的に作動し、チェーン刃を瞬時に停止させます。
・ また前ハンドガードを前方へ倒しますとブレーキが作動します。

チェーンブレーキは、前ハンドガードを手前に引くと解除できます。

注

・ チェーンブレーキは、安全にご使用していただくための重要な装置です。常に点検をしてください。ブレーキの作動が不確実なときは、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。

⚠警告

使用時は、両手で確実にハンドルを保持し、片手では作業しないでください。
・ 本機がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。
使用中は、チェーン刃、ガイドバーや回転部に手や顔などを近づけないでください。
・ けがの原因になります。
ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないよう作業してください。
・ 本機がはね返り (キックバック)、けがの原因になります。
〔事業者の方へ〕
樹木を伐り倒す作業や伐り倒した樹木を切断する作業を行う場合は、法、規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。
(関連法令)
労働安全衛生法第 59 条第 3 項
安全衛生特別教育規定第 10 条の 2
労働安全衛生規則第 36 条第 8 号および第 8 号の 2

⚠注意

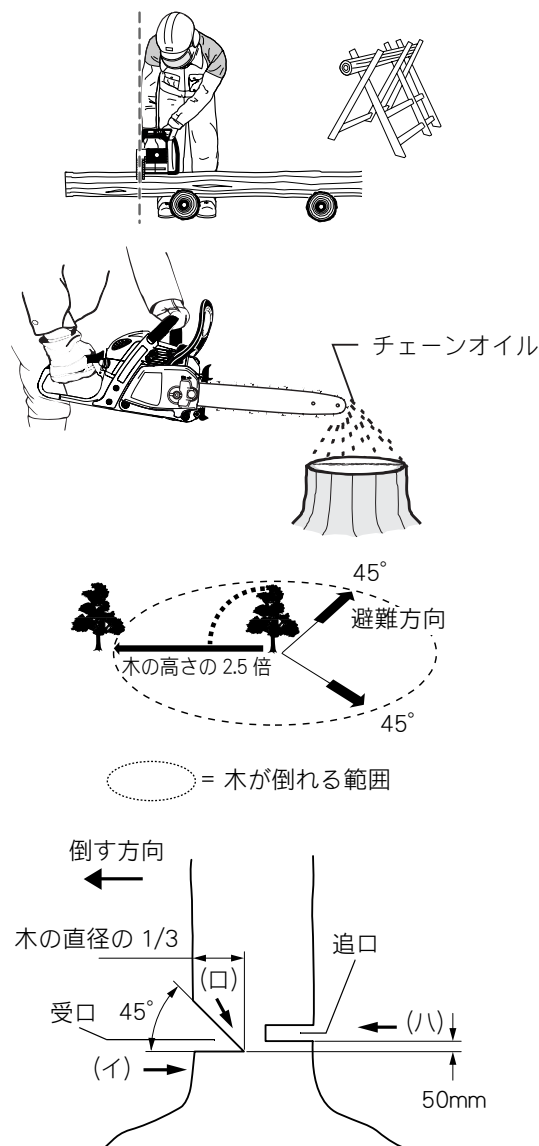
切断材料は、しっかり固定してください。また切り落とし材に充分注意してください。
・ けがの原因になります。
2 台以上で作業するときは、安全な距離をおいてください。
・ 事故の原因になります。

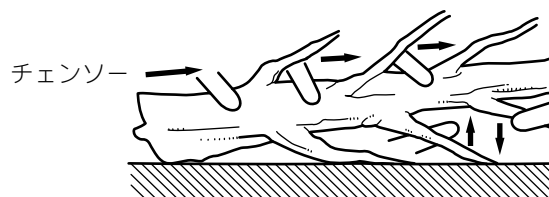
◎基本的な作業

1. 回り止めやうまなどを用いて、木材が動かないように固定してください。
2. エンジンを始動させてください。
3. ハンドルを両手でしっかり握り、スロットルを引いて全速運転し、ガイドバーの先端からチェーンオイルが吐出しているか確認してください。
4. ガイドバーの中央部付近を木材に当てて、そのまま真下へ本機を押し付けて切断してください。
5. 切断が終わりましたらスロットルを戻しエンジンを停止させてください。

◎各種の切断作業例

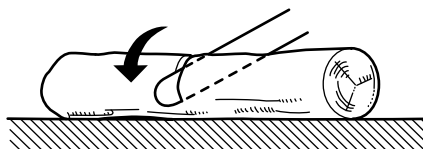
1 . 伐木作業（立ち木を倒す作業）

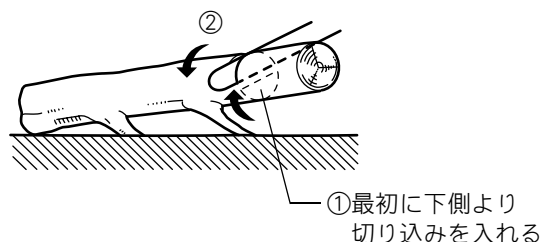
1. 倒す木の傾き、大きな枝の位置、風向きなどを考えて倒す方向、避難する方向を決めます。
2. 周囲の障害物を取り除き、足場の安全を確認します。倒す木が斜面にある場合は、必ず山側に安全な足場を確保してください。
3. 図のように木を倒す方向に、直径の 1 /3 程度の切り込みを（イ）、（ロ）の順に入れて受口を作ってください。
4. 受口の水平部より約 50mm 上部に、受口の水平部と平行に追口を切り込んでください。（ハ）
5. 追口の切り込みが樹芯を越えますと木が倒れ始めます。
6. 木が所定の方向に倒れそうもない場合やチェーン刃、ガイドバーが挟まれたときは作業を中止し、追口にクサビを入れて倒れる方向を矯正したり、チェーン刃、ガイドバーが挟まれないようにしてください。

2. 枝払い作業

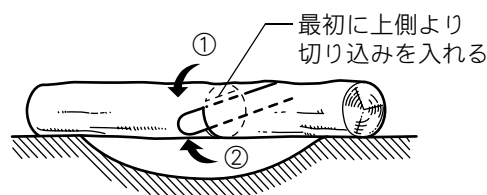
1. 倒した木の枝払いは、まず上部、側面の枝を一方向より切り落としてください。
2. 次に幹を支えている大きな枝を残し、地面側の枝を下側より切り落としてください。

3. 造材作業（倒した木を切断する作業）

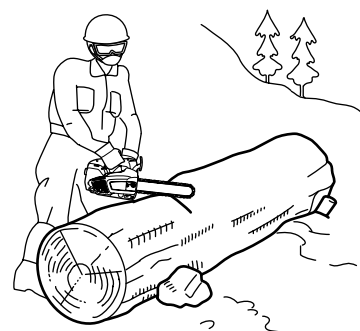
・ 丸太の置かれている状態により切断方法が異なりますので、次のように切断してください。

1）丸太全体が地面に接している場合

1. 丸太の上部から切り始め、そのまま真っ直ぐに切り下げてください。
2. 切り終わりにチェーン刃が地面に触れないよう注意してください。

2）丸太の一端が支持されている場合

1. 最初に丸太の下側より直径の 1/3 まで切り込んでください。
2. 次に下側から入れた切り込みと一致するように位置を合わせて上部から切断してください。

3）丸太の両端が支持されている場合

1. 最初に丸太の上部より直径の 1/3 まで切り込んでください。
2. 次に上部から入れた切り込みと一致するように位置を合わせて下側から切断してください。

4）斜面で丸太を切断する場合

1. 最初に丸太がころがって落ちないようにクサビや杭などを用いて丸太を支えてください。
2. 次に山側に立って、1) ～ 3) の内の適した方法で作業してください。

⚠注意

点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。

・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。

注

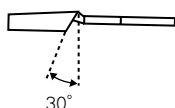
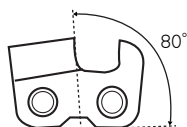
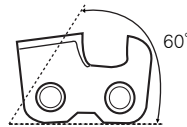
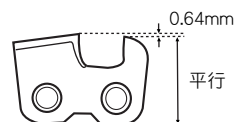
・ 点検整備するときは、本機の汚れを落とし、ゴミやほこりのかからないきれいな場所で行ってください。

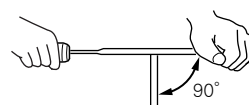
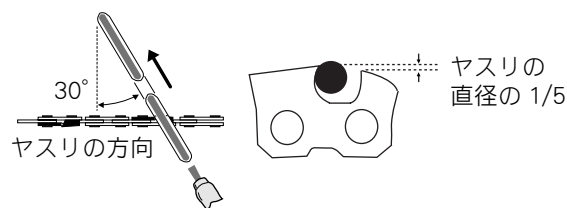
チェーン刃の目立て

⚠警告

チェーン刃は正しく目立てしてください。

・ 特にデプスゲージの寸法が大きくなりすぎますと、チェーン刃が切れやすくなり、けがの原因になります。

上刃目立角度

横刃目立角度

上刃切削角度

デプスゲージ

1) 上刃および横刃の目立て

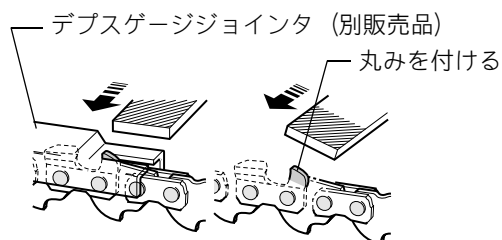
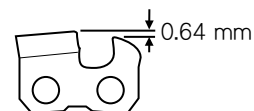
1. ガイドバーに対して丸ヤスリを 30°傾け、丸ヤスリの直径の 1/5 が上刃より出るようにチェーン刃に当ててください。
2. 丸ヤスリの当て方は、押すときだけヤスリをかけ、手前に引くときは刃部にヤスリを当てないようにして、上刃および横刃の目立てをしてください。

2) デプスゲージの調整方法

デプスゲージはチェーン刃の切り込みしろを適正（0.64 mm）に保つためのものです。

1. デプスゲージジョインタ（別販売品）を図のようにセットし、溝から出た部分を平ヤスリで削り落とします。
2. デプスゲージの角に丸みを付けます。
3. デプスゲージの調整が終わりましたら、オイルに浸して切り粉を洗い落としてください。

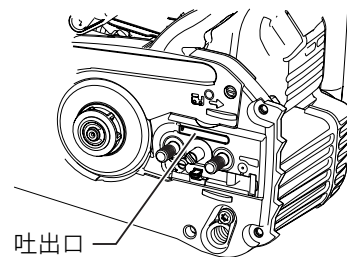
デプスゲージセッティング

デプスゲージジョインタ（別販売品）

丸みを付ける

注

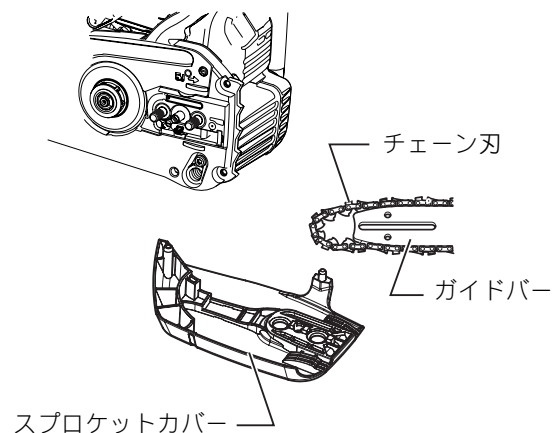
・ 刃部の目立てには、外径が 4.0mm （呼び 5/32”）の目立て専用丸ヤスリを使用してください。

チェーンオイル吐出口の清掃

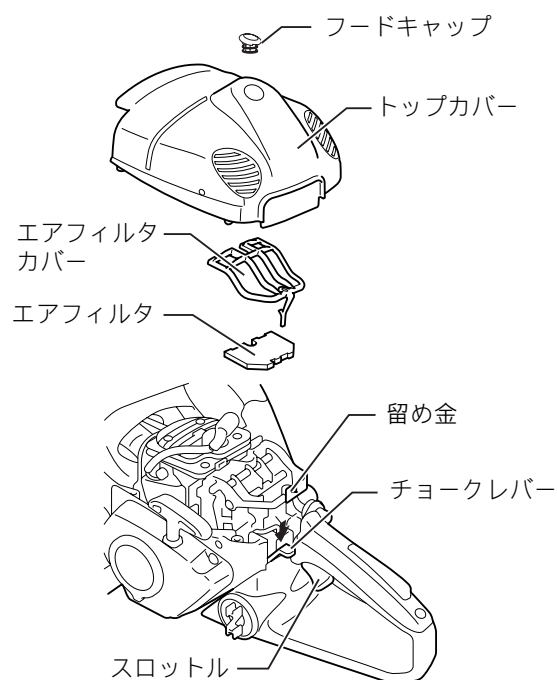
・ チェーンオイル吐出口、ガイドバーのオイル供給穴は機会あるごとに清掃してください。

ガイドバーの清掃

・ ご使用中に、切りくずがガイドバーにつまることがあります。
・ 切りくずがガイドバーの溝につまりますと、チェーンオイルがチェーン刃全体に行きわたらなくなります。チェーン刃を目立てや交換するときに、細い棒などでガイドバーの溝に入った切りくずを除去してください。

スプロケットカバーの清掃

・ スプロケットカバーを取りはずし、中に溜まった木くず等をブラシなどで清掃してください。

エアフィルタの清掃と取り替え

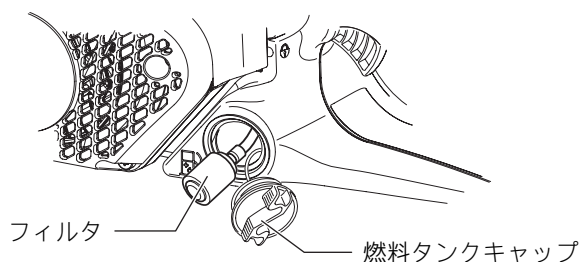
・ フィルタが目づまりするとエンジン不調の原因になります。作業終了後には、次の手順で清掃してください。

1. フードキャップを取りはずし、トップカバー取り付けネジをゆるめ、トップカバーを取りはずします。
2. キャブレタ内にゴミなどが入らないように、チョークレバーを |/| の位置までに引き上げておきます。
3. エアフィルタカバーの留め金をはずし、エアフィルタをとりだします。取りはずしましたら、ほこりなどがキャブレタに入らないように、きれいな布等でキャブレタ入口をおおってください。
4. エアフィルタは軽く叩いてゴミやほこりを落としてください。
   特に汚れがひどいときは、ぬるま湯と洗剤でよく洗い、充分乾かしてから使用してください。
5. 清掃が終わりましたら、フィルタを充分乾燥した後エアフィルタを図の向きで元の所に差し込み、留め金で固定します。チョークレバーを下いっぱいに引き下げ、スロットルを一度引き、スロットルのロックを解除します。トップカバーを元に戻し、カバー留め具で取り付けてください。

注

・ フィルタがぼろぼろになったり、著しく汚れている場合は、新品と交換してください。
エンジン破損の原因になります。

燃料タンクフィルタの清掃と取り替え

燃料タンクフィルタがつまるとエンジン不調やエンジン故障の原因になります。定期的に点検してください。

1. 燃料タンクキャップをはずしてガソリンを抜いてください。
2. 次に針金などを使ってフィルタを燃料注入口から引き出し、ガソリンでよく洗ってください。
3. 汚れがひどいときは、燃料管からフィルタを引き抜いて新品と交換してください。

スタータ

⚠注意

大変危険ですので、スタータを分解しないでください。
・ 修理の際はお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。

スパークプラグの点検と整備

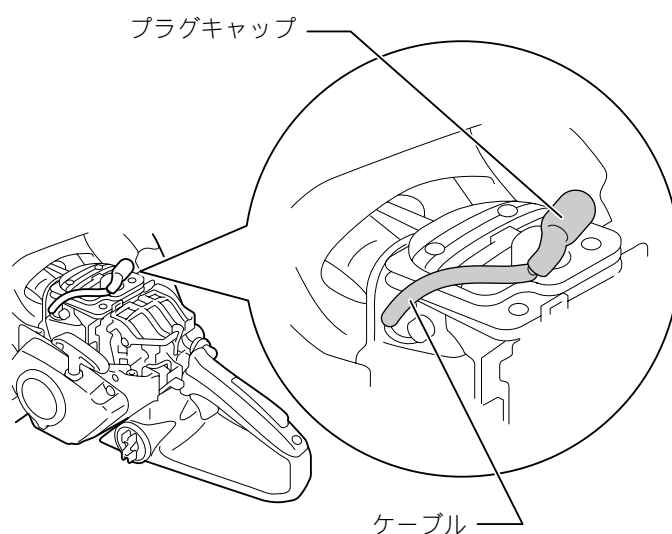
⚠警告

シリンダ内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグの取り付けネジ部には接触させないでください。
・ やけどの原因になります。
スパークプラグの金属部に触れながら、スタータハンドルを引かないでください。
・ 感電する恐れがあります。

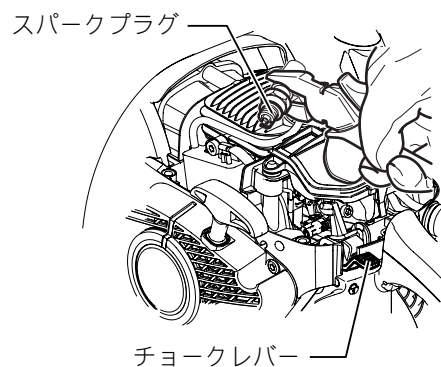
点検

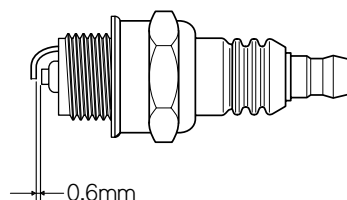
1. トップカバーをはずし、プラグキャップをはずして、スパークプラグをはずします。

スパークプラグ点検と整備の際の注意点

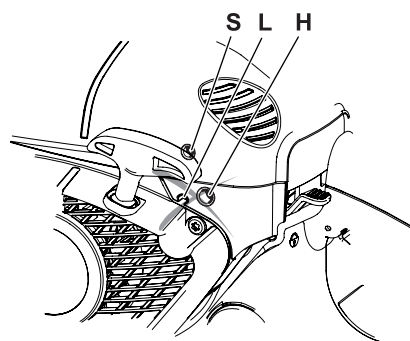
・ プラグキャップを取りはずす際は、手で取りはずしてください。

注

・ 無理な力を加えたり、ケーブル部分を引っ張らないでください。プラグキャップを破損する恐れがあります。

2. プラグキャップにスパークプラグを差し、スパークプラグをプラグ取り付け穴より離れた金属部に接触させます。
3. チョークレバーを ON の位置にし、スタータハンドルを引きます。正常な場合は点火火花がでます。

整備

・ スパークプラグは指定のものをご使用ください。
  1. プラグキャップをはずし、スパークプラグをはずしてください。
  2. 電極の隙間が 0.6 mm になっているか確認してください。もし広がりすぎたり狭すぎる場合は調整してください。
  3. カーボンが溜まったり、汚れている場合はガソリンで洗い乾かしてから取り付けてください。また摩耗したり、焦げているものは新品と交換してください。

キャブレタ（気化器）の調整

・ キャブレタは出荷時に燃料が最適に供給されるように調整してありますから、調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、当社営業所にお申し付けください。
・ アイドリング時チェーン刃が回転するときは、チェーン刃が回らないようアイドリング調整を行ってください。
・ また、アイドリング時にエンジンが停止してしまうときは、回転が安定するようにアイドリング調整を行ってください。
・ 調整は図のアイドリング調整ネジ（S）を回してください。調整ネジは、右へ回すと回転が上がり、左へ回すと回転が下がります。

格納方法

⚠警告

燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

・ 停止直後では、やけどまたは引火、火災の原因になる恐れがあります。

⚠注意

ガイドバーにカバーをし、チェーン刃がむき出しにならないようにして、お子様の手の届かない所に保管してください。

・ けがの原因になります。

・ 次の手順で燃料タンクから燃料を抜き、格納してください。
1. 燃料タンクのキャップをはずして、燃料を抜いてください。
2. 燃料タンクのキャップを締め、エンジンが停止するまで運転させてください。
3. スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしてください。
4. スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせスパークプラグを取り付けてください。

注

・ **長時間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタなどから燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。**